

岐阜農林事務所の普及活動状況

令和元年12月25日現在

今月の重点活動

■スマート農業 第4回コンソーシアム会議にて成果を検討

瑞穂市の(農)巣南営農組合では、本年度4月より国のスマート農業技術開発実証プロジェクトに取り組んでいる。

12月23日には、今年度の実証成果を検討するため、第4回コンソーシアム会議を開催、生産者や関係機関など22名が出席した。

会議では、スマート農業機械で既存機械よりも作業効率が向上したことや機械を操作する女性オペレーター育成など実証事業により得られたデータや効果の報告を受け、実用上の問題点や次年度の方針について検討した。

農業普及課では、会議に際してデータ収集や分析を行ったが、今回の検討結果を踏まえてプロジェクトの課題を整理し、2年目も実証に向けて関係者とともに取り組む。(地域支援第三係・松本政行)



【コンソーシアム会議で
実証結果を検討】

新たなブランドづくり

■にんじん 春夏にんじんの播種始まる

12月20日から令和2年産の春夏にんじんの播種が始まった。

農業普及課では、各務原市にんじんを対象として「新たなブランド創出支援事業」に取り組んでいることから、播種に合わせて新たな肥料など現地試験を開始した。

特に今年は、春先に「しみ腐れ病」が目立ったことから、播種時の薬剤散布や排水を良くするなど、品質の良いニンジンが獲れるよう対策を生産者やJAとともに検討し、今作では実施に努めている。

農業普及課では、「しみ腐れ病」の原因追及や対策について研修会等を通じて指導を行ってきたが、今後も現地の課題に応じて支援に取り組む。(地域支援第二係・水川 誠)



【春夏にんじんの播種開始】

多様な担い手づくり

■担い手育成 青年農業士による農業高校への出前講座

12月10日に岐阜農林高等学校において、各務原市の青年農業士 橋本涼氏(株式会社はしもと農園 代表取締役)が、園芸科学科2年生39名を対象に「先進農業者から農業を学ぶ」というテーマで出前講座を行った。

橋本氏は、非農家で県外出身であるが、どのような経緯で農業を目指し、どんな経営理念を持って就農したかや今後の展望など農業への思いを熱く語り、講義の最後に学生へ「就農に限らず、みなさんは若いので、失敗を恐れず色々試してほしい」とエールを送った。

1月には同じく青年農業士で、瑞穂市で柿を栽培する関谷英樹氏が、食品科学科の生徒を対象に「農業の六次産業化について」というテーマで講義を行う計画であり、農業普及課では引き続き高校との調整など支援を行う。(地域支援第一係・山田和彦)



【高校生へ思いを語る橋本氏】

売れるブランドづくり

■水稲 JAぎふ水田農業担い手連絡協議会 研究交流会を開催

12月10日、JAぎふアグリパークにおいて、第15回JAぎふ水田農業担い手連絡協議会・研究交流会が開催され、管内の稲作農家、JAぎふ、JA全農岐阜、農業資材・機械メーカー、岐阜農業普及課の職員等、約330名が出席した。

研究交流会では、JA全農岐阜より米穀情勢報告があった後、JAぎふより米の複数年契約の推

進や水稻TAC4名による肥料試験など今年取り組んだ課題について成果発表が行われた。

農業普及課からは、今年の水稲作柄と多収性品種のこれまで3年間の実証成果のほか、近年温暖化の影響とみられる高温登熟障害や今年被害の多かったジャンボタニシの対策などを報告した。

農業普及課では、次年度以降も関係機関と連携して米の生産安定へ向けた各種調査や試験など技術支援を行っていく予定である。

(地域支援第一係 小島康平)



【大勢参加の研究交流会】

■祝だいこん 出荷目揃会を開催

12月13日、大阪市場で生産者、市場関係者等による情報交換会で本年産の出荷規格等が検討され、12月17日にはJAぎふ則武支店にて、祝だいこんの出荷目揃会が開催された。

今年は、当初は天候不良で生育は遅延気味であったが、その後は回復し、昨年を上回る約60万本の出荷が見込まれる。

農業普及課からは、今年的气象経過、生育調査結果の概要の情報提供と選別基準・出荷規格の厳守などについて指導を行った。

祝だいこんは、12月20日～28日の期間限定で大阪市場に出荷され、関西のお正月には欠かせないお雑煮の具材として使用される。(園芸産地支援第一係・高橋 幸蔵)



【目揃会で規格を徹底】

■花き ローダンセマム現地試験実施

岐阜地域の生産者では、ローダンセマム「クレールシリーズ」の栽培に取り組んでいるが、近年の高温による挿し芽不良や開花時期の後退が課題となっている。

そのため、農業普及課では出荷時期の前進化など高品質安定生産の実現を目的に、生産農家にて低温遭遇試験を10月から開始した。

12月23日には、花き革新支援専門員と現地調査を行い、苗が順調に生育していることを確認した。

農業普及課では、温暖化が進む中でどのような栽培管理をすべきか現地試験等を行いながら課題解決に取り組む。(園芸産地支援第一係・福田 富幸)



【苗の生育調査を確認】

■カキ 間伐・整枝剪定研修会開催

本年の柿出荷が、秋の高温のため例年より遅れて12月19日で終了した。栽培面では、前年に続く夏期の高温少雨やカメムシ類等害虫の発生に見舞われた年であったが、出荷については概ね前年並みで終わることが出来た。

各産地では、出荷終了に伴い次年度の栽培に向け間伐・整枝剪定講習会の開催を計画しており、農業普及課では今年生育を踏まえて栽培方法など現地実習を通して技術支援を行っていく。

(園芸産地支援第二係・鷲見彩子、小枝俊仁)



【間伐・整枝剪定講習会】

■いちご 岐阜市産いちごのPR試食会を実施

12月14日、JAぎふ岐阜市いちご部会青年部が「岐阜市産 いちご・濃姫・美濃娘・華かがりPR試食会」を市内量販店にて開催した。

試食会では、来店者に各品種1粒ずつ試食してもらい、どれが好みかを問う方式で実施したところ、約500人から回答があり、「濃姫」を好む消費者が約40%と一番多く、「華かがり」も34%が好みと答えていた。また、試食した消費者の方の多くから、「華かがりといういちごを初めて知った。」との意見が多く聞かれ、岐阜いちごの認知度向上にも繋がった。

すでに管内各産地では目揃会も始まっており、農業普及課では関係機関と連携し栽培指導だけでなく、岐阜いちごPR活動を支援していく。(園芸産地支援第二係・三和 浩一)



【試食を勧める青年部員】